

静岡大学 同窓会会報

NO.16

発行所
静岡大学理学部同窓会
静岡市大谷 836
静岡大学理学部内
Tel 054-237-1111(代)
会長 赤池大樹

同窓生の皆さんへ

副会長 石渡達也



ました。また多くの冠事業が行われ、創立五十周年記念誌も発行されました。

いよいよ二十世紀の最後の一年となりましたが、活躍のこの思いです。

私は平成七年の九月まで教養部に在籍してました。そこで情報学部の新設、二つの短大の廃止、農学部、人間環境科学科の設置、教育学部の縮小、といったことを含む全学再編の中の教養部廃止に至る過程の審議にまともに関与してきませんでしたので、大学改革のすさまじさを皆さんに味わって、もう一回りだと思いつつ理学部にやってきました。しかしそこで待ち受



けていたのは、今度は戦後新制大学ができて以来の国を挙げての大改革でした。それが果たして「改革」といえるのかどうかは別にして、今全国の国立大学があらわだしい雰囲気の中で取り組んでいる問題が二つあります。その現状を、この紙面を借りまして、述べてみたいと思います。

その一つ目は、平成十年の十月に出た大学審議会の答申「二十一世紀の大学像」と今後の改革方針について、競争的環境の中で個性が輝く大学に基づくものです。静岡大学では、翌年四月を待たずしてさっそく評議会の下に学長を議長とする大学改革推進会議が発足し、その下部組織として教育研

発足しました。一年に二回会合を持ち、情報交換を主体に、同窓会同志がお互いに理解を深めるとともに、学長や学部長等大学を代表する方々との交流の場、意見交換の場を設け、大学との連携強化を図るよう運営される予定です。

以来十六年を迎え、そろそろ役員交代が話題になっております。次回総会に向けての検討課題となると思われ、さらにはインターネットによる会員との連絡の研究など、今後の新たな事業を検討する時期になってきたと思われ、会員皆さんの役員への立候補を推挙を含めて、意見、提案等々ふるって送りください。

平成八年には理学と工学を融合した理工学研究科博士課程ができました。これに伴い、助手の教授への振替、大講座制の採用などが行われ、化学科にも多くの教授、助教が誕生し、構造化学大講座と機能化学大講座に住み分けています。しかし、この存続のようには、化学の分野では構造と機能は車の両輪のように分離することはできません。さて、私はどの講座に属しているのでしょうか、名簿を調べる必要があります。

現在各研究グループを紹介しましょう。構造物理化学グループ 飯島欣哉 教授、尾形照彦教授、岡林利明助教授、反応物理化学グループ 相原博一教授、関根理香助教授、有機化学グループ 入川隆教授、櫻井厚教授、(機)、有本博一助教授、生化学グループ

吉永光一教授(機)、瓜谷真裕助教授(機)、上野勝助(機)、無機・分析グループ 宇津野峻司教授(機)、立島章助教授(機)、川田知助教授(機)、菅野秀明助教授(機)、放射化学研究施設 奥野健二教授、菅沼英夫教授、吉岡潤江助教授、矢永誠人助手

それ活躍されています。また、引退された福島先生と長谷川先生は非常勤講師として授業を担当されています。皆さんがいろいろな研究をされていますが、昇任ははややの方の業績を紹介しよう。 Okabayashi, T. And Tanimoto, M. The rotational spectrum of the CrF radical in the gas phase. J. Chem. Phys., 105, 7421-7424(1996).



前列左より2番目が筆者

大学「改革」の現状

理学部長 天岸祥光

浜名湖で合宿もしました。審議会の答申には様々なことが書いてあって、ここではとても網羅できませんので省略しますが、納得できない、解釈に苦しむ点多々ありました。しかし、この答申に基づいていくつ

臣が任命する人達の組織を置かなくてはならなくなりました。この会議は、大学の重要事項について、学長に対し助言、「勧告」ができるようになってきます。静大では、構成メンバーを十人以内とし、(一)本学の卒

業生、(二)大学その他の教育機関に在職する者、(三)本学の所在する地域の関係者、(四)その他大学に関し広くかつ高い見識を有する者、を考えています。(一)の卒業生を入れましたので、いづれ理学部同窓会からも選出していただくことになろうかと思えます。

また、この四月から、静大にも二人の副学長を置くことが認められました。一方学長のリーダーシップが上記の答申で謳われているので、学長のブレーン的組織が必要であると判断し、やはり四月より、「企画会議」と「学長補佐室」を学長直

属の組織として発足させます。前者は学長、副学長、三人の学長特別補佐、局長から成り、決定権はありますが、大学の運営に関する企画・立案などを学長に提言する組織です。後者は、入れ物だけで、必要に応じて学長が人選し資料収集等を行ってもらう組織です。しかし、最高意思決定機関は無論評議会であることは確認した上で話です。

教育ボランティア

「ふくろうの会」

石川 博夫

「ふくろうの会」は、愛知県半田市にある「半田空の科学館」の事業に協力し、天文普及に貢献するための「教育ボランティア活動」をしているグループです。

科学館が指導者養成講座を開講し、ボランティアとして募集しているのは全国的にも珍しいことで、一般的には、地元の天文同好会が観望会などのお手伝いをしています。会の発足にあたっては、開館当時、科学館の職員でおられた地球科学科の先輩、村松さん(現在は、飯田市美術博物館)が尽力されたと聞いています。

私がこの「ふくろうの会」に入会したのは十二年前、ちょうど大学卒業後、地元に戻って就職し、結婚して長女が生まれた頃でした。もともと子供の頃から星を見るのが好きで、高校生の頃は地学部所属、この地学部顧問の先生も静大出身の方で、大変お世話になりました。静大時代は、しばらく星とは離れ、地面ばかり(地球科学です)から見てきましたが、就職、結婚、長女誕生と生活が落ち着いてくると再び星への興味が湧いてきました。しかし、昔のようにがむしゃらに観測したり写真を撮ったりするのはではなく、のんびりと星を眺めたい、そんな気持ちの時、半田空の科学館の指導者募集を眼にしたのでした。

「ふくろうの会」が他の天文同好会と根本的に異なるのは、「星を見せる会」であるというところです。天文同好会は星好きの仲間が集まり、いっしょに星を見たり、自分の観測結果を発表したりしています。しかし、「ふくろうの会」で星を見るのは、まず自分が星を見て感動し、その感動を子供たちに語るためです。そのため、年に数回は星の良々見える長野県上村しらびそ高原(以前、地球科学科の後輩に会い、静大から見た南アルプスのちょうど裏側が見える)を教えていただきます(第二十四回卒)。

当になつたからだ。高校生対象とはいえ、十年ぶりに四日間数学漬けになる日々は、忘れさせてしまった数々の記号や用語にまず慣れることからして、たいへんであった。数学の教員としては情けない話である。しかも「整数論」という自分がゼミで学んだ内容でありながら、浅井先生に

「小川さんは何度かやってみて、どうですか」と声をかけられる度に冷や汗をかきっぱなしであった。しかし、浅井先生の講義は数学に対する愛情にあふれ、数学を楽しくしている姿はとも懐かしかった。

こんな風に数学を自分でも楽しみながら教えることができたらいいのになあ。(第二十四回卒)

静岡大学での思い出

物理学科 高野泰輝子
静岡大学での思い出は数々ありますが、なかでも四年生での研究室生活が特に印象に残っています。私は故郷長島弘幸先生の研究室に所属していましたが、長島先生は非常に厳しい面もありましたが、ユーモアがあり、時には無邪気にはしゃぐとても明るい先生でいらしていました。研究室では机や本棚、アンテナからコンセントまでなんでも自分達の手で作りました。棟の屋上には先生お手製のアンテナがあり、とても簡単な作りでしたが、そこには物理のエッセンスがたくさん詰まっています。私はこのような生活を通して先生から生の物理を学んだように思います。そして私は物理を応用し何かを作り出す事に興

味を持つようになり工学系の大学院へ進学、そして現在は電気会社で研究を行う身となりました。私の人生において長島先生の存在は非常に大きなものだったとしみじみと感じています。先日は先生の三回忌でした。改めて先生との一年間を思い出して、先生から学んだ研究への姿勢を再確認して

味を持つようになり工学系の大学院へ進学、そして現在は電気会社で研究を行う身となりました。私の人生において長島先生の存在は非常に大きなものだったとしみじみと感じています。先日は先生の三回忌でした。改めて先生との一年間を思い出して、先生から学んだ研究への姿勢を再確認して

「小川さんは何度かやってみて、どうですか」と声をかけられる度に冷や汗をかきっぱなしであった。しかし、浅井先生の講義は数学に対する愛情にあふれ、数学を楽しくしている姿はとも懐かしかった。

こんな風に数学を自分でも楽しみながら教えることができたらいいのになあ。(第二十四回卒)

無題

化学科 太田良和弘
世間は西暦二〇〇〇年代を迎えすっかり変革ムードが強くなっているが、私自身、特に変わる気配は無い。仕事上、環境観測機器を所管しているため、Y2K問題に関しては多少意識をしていたのだが、フタを開けてみると大きなトラブルもなくのほほんと今日を迎えている。二〇〇〇年からは心機一転がんばろう!といった類の思考は残念ながら全く持ち合わせていないのだが、ふと考えると大学を卒業し現在の仕事に勤めて十年目であることに気づく。公務員の悲しい宿命か、専門職でありながら転勤を繰り返して、現在は幸か不幸か就職一年目と同じ職務についている。転勤したといつても「環境」というキーワードの基に仕事をしていた自分はまだ恵まれていたのではないかと思う。キャリア十年目なんだから仕事に關

してはそれなりにがんばってみたいが等と殊勝なことを考えつつ、キャリア十一年目のスキーで骨折したアバラ骨をさする今日この頃なのである。(第二十三回卒)

してはそれなりにがんばってみたいが等と殊勝なことを考えつつ、キャリア十一年目のスキーで骨折したアバラ骨をさする今日この頃なのである。(第二十三回卒)

「小川さんは何度かやってみて、どうですか」と声をかけられる度に冷や汗をかきっぱなしであった。しかし、浅井先生の講義は数学に対する愛情にあふれ、数学を楽しくしている姿はとも懐かしかった。

こんな風に数学を自分でも楽しみながら教えることができたらいいのになあ。(第二十四回卒)

無題

地球科学科 磯部好和
大学時代の思い出は聞かれ、真面目に考えたが、あえて思い出の寄り道をしたい。当時、私の下宿は定年坂の上にあった。今では、多

その後、一九九二年に帰国。この間リスボンのヴァイオダ・モッタ国際コンクール、アテネのマリア・カラス国際音楽コンクール、ディプロム受賞。パリ、ブリュッセルでのピアノリサイタルなどヨーロッパで演奏活動。一九九二年、日本演奏連盟主催「演連コンサート」のオーディションに合格し、東京文化会館小ホールにてピアノリサイタルを開催。その後一九九四年、一九九六年の東京でのリサイタル

同窓生の窓

ころ(一九九一年)に今はもう退官された和田清美先生の御指導のもと、アサガオの光周性について勉強をしていました。ひたすらアサガオを細かく分解する毎日でしたが、微細藻類に興味を引かれ、東京大学の大学院に移り大森正之教授の下で藍藻アナヘナ(日本名ではジユズモ)についてCAMF情報伝達系につい

ての研究を行いました。のどかな静岡とは違ってどことなく殺伐とした東京の雰囲気には結局あまり馴染めませんでした。その後ポスドクとしてテキサスA&M大学に留学し、ふたたびのんびりした日々を二年半ほど過ごしました。College Stationという町に住んでいましたが、大変暑いというのを除けばとても住みやすい所でした。ここではSusan Golden教授のもと、より単純な藍藻を使って概日時計の研究を行いました。昨年十一月に帰国し、今は名古屋大学の近藤孝男教授の研究室でひきつづきポスドクをしているところです。(第二十四回卒)

無題

地球科学科 磯部好和
大学時代の思い出は聞かれ、真面目に考えたが、あえて思い出の寄り道をしたい。当時、私の下宿は定年坂の上にあった。今では、多

その後、一九九二年に帰国。この間リスボンのヴァイオダ・モッタ国際コンクール、アテネのマリア・カラス国際音楽コンクール、ディプロム受賞。パリ、ブリュッセルでのピアノリサイタルなどヨーロッパで演奏活動。一九九二年、日本演奏連盟主催「演連コンサート」のオーディションに合格し、東京文化会館小ホールにてピアノリサイタルを開催。その後一九九四年、一九九六年の東京でのリサイタル

くの下宿が定年坂の上に建っているらしいが、私が入居した頃は二件しかなかった。自然に私の下宿は友人達のたまり場となったが、とても楽しかった。

私が卒業する頃まで静岡市には大店舗法の関係でコンビニがなかった。当然、静大生の買い物は友「とみ」の「大谷店」が二十二時に閉店すると、お酒やつまみが切れても、近くに買いに行く店が無かった。

しかし、定年坂を降って大谷街道を右に曲ると板屋という怪しい店があった。夜中、酒とつまみが足りなくなったら、ここに行けば買えた(営業違反?)。夜に活動しただす我々にとってはとてもありがたい店だった。さすがの板屋も今はない。私が卒業する頃、コンビニかアパートに建て替えられていた気がする。今思えば、夜中お酒を買いに友人と歩いたとても懐かしい思い出である。(第十四回卒)

無題

他、日本各地でコンサートに出演。一九九五年、国際交流基金の派遣で中南米のウルグアイ、コスタリカ、ホンデュラス、パナマを演奏旅行。繊細で水晶のような美しい音と絶賛される。ピアノを小林早苗、フランシス・デュケノア、クロウディア・ドッパニーニ、ニコル・アンリオリッシュュヴァイツァー、故安川加壽子の諸氏に師事。日本演奏連盟会員。

現在、昭和音楽大学、同短期大学講師。

事務局より

平成十二年七月二十日(火・海の日)に総会を実施しました。約五十名の出席者で

事務局より

平成十二年七月二十日(火・海の日)に総会を実施しました。約五十名の出席者で

事務局より

事務局より